

2024年9月18日

大島造船に64型バルカー 4 隻共同発注 英国船主ヘリコン／星港船社センチュリオン、日本拠点共同化



両社の共有船“Centurion Juktas”（2023年今治造船建造）

ギリシャ系英国船主ヘリコン・ SHIPPINGと、デンマーク系シンガポール船社センチュリオン・バルクは、昨年从今年前半にかけて 6 万 4000 重量トン型ウルトラマックス・バルカー計 4 隻を大島造船所に共同発注した。竣工後は両社が各 2 隻保有してヘリコンが船舶管理を行う。両社の間に資本関係はないが、ヘリコンが 2023 年に設立した日本法人「シップパートナーズ」（東京都中央区）が昨年センチュリオンの日本の営業拠点も引き受けている。“日本重視”という共通点を持つ両社が、世界的にもユニークな船主とオペレーターの協業に取り組んでいる。

ヘリコン・ SHIPPINGは、“ロンドン・グreek”（ギリシャ系ロンドン船主）のニコラス・パパイオアノ氏が 1961 年に設立。ニコラス氏が 2008 年に死去し、息子のマイケル・パパイオアノ氏が社長を継いでさらに発展させた。船隊は発注残を含めてバルカー約 50 隻、タンカー約 10 隻。マイケル氏が会社を継いで以降、日本建造船・新造船志向を強め、現在の船隊はほとんどが日本建造船で、多くの日本の造船所と取引実績がある。日本船主とも長期用船、セール・アンド・リースバック取引に加えて船舶の共同保有を行っており、さらに邦船オペレーター向けの定期貸船や地方銀行からの直接融資、リース会社との J O L C O（日本型オペレーティン

グリース) など、日本の海事産業の幅広い企業と取引実績を積み上げてきた。

ヘリコンは2023年1月に日本法人「シップパートナーズ」を設立した。シップパートナーズには丸紅出身の福富傑氏、パシフィックベイスン出身の簀戸健作氏、サムスン重工業出身の金正賢氏がパートナーとして共同出資している。

バルカーオペレーターのセンチュリオン・バルクはデンマーク人でノルデン出身のトーマス・リングバーグ氏とケネット・ビェアウ・ニールセン氏がアイルランドのエネルギー企業LCCグループのサポートを受けて2013年にシンガポールで設立した。

ノルデン黎明期の日本担当という経歴を持つリングバーグ氏は、日本の海事産業の商慣習に精通。これまでの経験を活かし、独立後はまずは会社の拡大よりも業界での信用を築くことに注力し、いかなるマーケット下でも契約を遂行できる財務体力がつくまで長期用船は行わないという慎重姿勢をとって力を蓄えてきた。日本船主からの長期用船を数年前に満を持して開始し、現在は発注残を含めて10隻以上に拡大している。

センチュリオンは、カーゴ契約の増加に伴い蓄えてきた自己資金で船舶保有にも乗り出す一方、今年7月にはデンマーク船社のインテグリティ・バルクを買収し、同社のハンディサイズ・バルカー十数隻が加わって船隊が約100隻に拡大した。

ヘリコンとセンリュオンの協力関係は、2023年に今治造船で竣工したハンディサイズ・バルカー“Centurion Juktas”の共有から始まった。これをきっかけにヘリコンの日本法人のシップパートナーズがセンリュリオンの日本拠点も引き受けることになり、現在両社はロンドンのオフィスも共有している。

ヘリコン・ジャパンとセンチュリオン・ジャパンを兼務する福富氏と簀戸氏は、「ヘリコンもセンチュリオンも日本マーケットを最も重要視している。日本造船所・日本船主との契約をしっかりと履行するのはもちろん、日々のオペレーションでの信頼関係を大切にしている」と語った。

資本関係がない船主とオペレーターの間のような協力関係は珍しいが、福富氏と簀戸氏は「船主のヘリコンはオペレーターが持つ貨物・港湾などの情報や最新のマーケット動向を追うことができ、オペレーターのセンリュリオンは船主が持っている船台の情報や船舶管理などに関する技術サポートを得ることができる。両社のフリートを合算すると最新鋭の日本建造船を中心に150隻以上の規模となり、マーケットでのプレゼンスを高め合っている。かつ船主とオペレーターなので両者の間にコンフリクトはなく、この協力関係は両社にとって大きなメリットがある」と説明した。

海事プレスに掲載の記事・写真等の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

© Kaiji Press Co., Ltd. All rights reserved.

No reproduction or republication without written permission.